

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人大沼学園 東京幼稚園

1 本園の教育方針

- ・自主性を育てる
- ・創造性を高める
- ・身体的発達を助長する
- ・社会性を伸ばす

2 保育目標

年少

まず幼稚園という環境に慣れることと、基本的な生活習慣を身につけていくことが目標です。月齢差や家庭での生活経験、育った環境などによる個人差はありますが、園児の成長段階に合わせて言葉掛けや環境設定などの配慮をします。まだ自分では周囲にうまく言葉で伝えられない園児の心を読みとるように心がけています。

年中

「集団生活ができるこども」をテーマとして、楽しく園生活を送りながらお友達を作る環境を整えていきます。お友達との関わりは社会生活への第一歩です。無理に関わりを持たせようとはせず、お友達の様子を見たり、遊びの中で子供同士がお互いに興味を持てるようにしていきます。その中で他者の存在を意識し、受け入れることによりお互いに影響し合って自己を形成していきます。

年長

最終学年となる年長では、さらに集中力や体力の向上を目指していきます。小学校就学に向け、文字や数の概念を身につけるとともに、人の話を聞く、自分の意思をきちんと伝える、相手の気持ちを理解するなど、集団の中での関係を構築し、より周囲と積極的に関わられるよう指導していきます。

3 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- ・幼稚園教育要領に準拠した総合教育により、人間形成に必要な基礎をつちかい、豊かな感性とたくましく生きる子供の育成を目指す。
- ・遊具や器具を使って体幹を使い、鬼ごっこなど身体を使った遊びを取り入れて、身体の使い方や俊敏性及び知恵を養う。
- ・外部の講師による保育の機会を広げ、教育の充実、向上を図る。

4. 教育活動に対する学校評価

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評価	取り組み状況	評価	意見
教育方針 や保育目 標	A	教育方針や保育目標、重点目標について、教職員間の共通理解を深めて、実際の保育に沿わせていけるように努力している。	A	・先生方の教育方針への理解、情報の共有がしっかりしており、安心して子供を預けられる。
教育の質 と保育力 の向上	A	園児一人一人の日々の様子や気づいたこと、気になったことを話し合い、職員全体で見守る姿勢を取った。保育においては成長を踏まえて保育内容を考え、園児が好きなこと、得意なことを見つけれられるようさまざまな分野の保育を行った。 外部専門講師（英語、体育）を定期的に招き、英語では英語を楽しんで触れること、体育では正しい身体の使い方を身につけることを目的として継続的に取り組み、教育の質の向上を図った。またその時だけでなく日常の保育の中でも反復して伝えることで浸透するようにした。 定期的に避難訓練を実施し、災害時や不審者が侵入した際の対応を行った。	A	・一人一人を大切にする保育姿勢を今後も引き続き継続してほしい。 ・専門講師を招いての指導は、今年度も大変有意義であった。今後も継続して取り組むことにより、より一層の教育の向上を期待したい。
環境の整備及び安全確保	A	日々の遊具の安全点検を徹底し、修理箇所は迅速に対応した。感染予防として園児には手洗い、うがいを指導し、コロナ対応は終了したが、引き続き保育室内の消毒及び整頓を徹底した。	A	・遊具、園庭で園児たちが走り回っている姿がよく目にする。多くの時間を積極的の身体を使うことを今後も続けていてもらいたい。 ・防犯、防災を引き続き徹底してほしい。
保護者・地域との連携	A	保護者からの相談に対しては担任、学年主任、あるいは統括主任、園長が迅速に対応した。 地域の保幼小連携合同研修会や連絡協議会へ積極的に参加し、小学校との交流も一層進めていきたい。	A	・保護者、小学校、近隣との連携を今後も積極的に行ってほしい。

(A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった)

5 総合的な評価結果

評価	理由
A	それぞれの評価項目において、一定の成果があった

6 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育の質と保育力の向上	園内、園外の研修の充実、外部講師の積極利用
2	環境の整備及び安全確保	遊具、通園バスの安全対策
3	保護者・地域との連携	小学校との連携の強化、地域子育て教育相談の充実

7 学校関係者評価委員会の評価

芝生や遊具などの園庭や園舎といった施設面も充実しており、職員間や外部講師との情報の連携も素晴らしい。

今後もさらなる保育環境の充実のため、引き続き努力を続けていってほしい。